

新潟県中越地震の活動概要

長岡消防の対応と活動

長岡市消防本部

大勝道里





震災時長岡消防の警備体制



職員数 195人 当日の警備人員 55人

救急車 7台 ポンプ車 13台
はしご・救助車等 5台 その他の車両 12台



長岡消防の応援要請

- ◆ 消防災害対策本部を設置
10月23日 17時56分（地震発生）
消防本部庁舎3階講堂に設置
- ◆ 新潟県広域消防応援要請
10月23日 18時36分
消防無線で新潟市消防局に要請
- ◆ 緊急消防援助隊出動要請
10月23日 19時20分
新潟県が総務省消防庁に要請



長岡消防の受援状況

(10/23～11/9までの17日間)

受援隊名	延べ隊数	延べ人員
緊急消防援助隊	176隊	700人
新潟県内応援隊	80隊	266人
合 計	256隊	966人

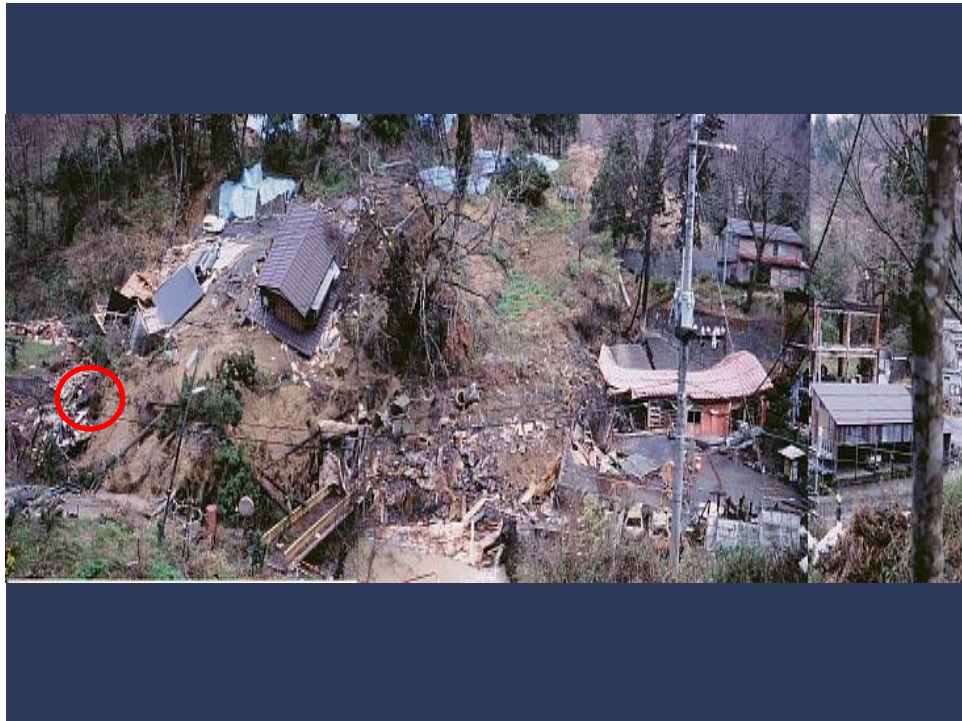
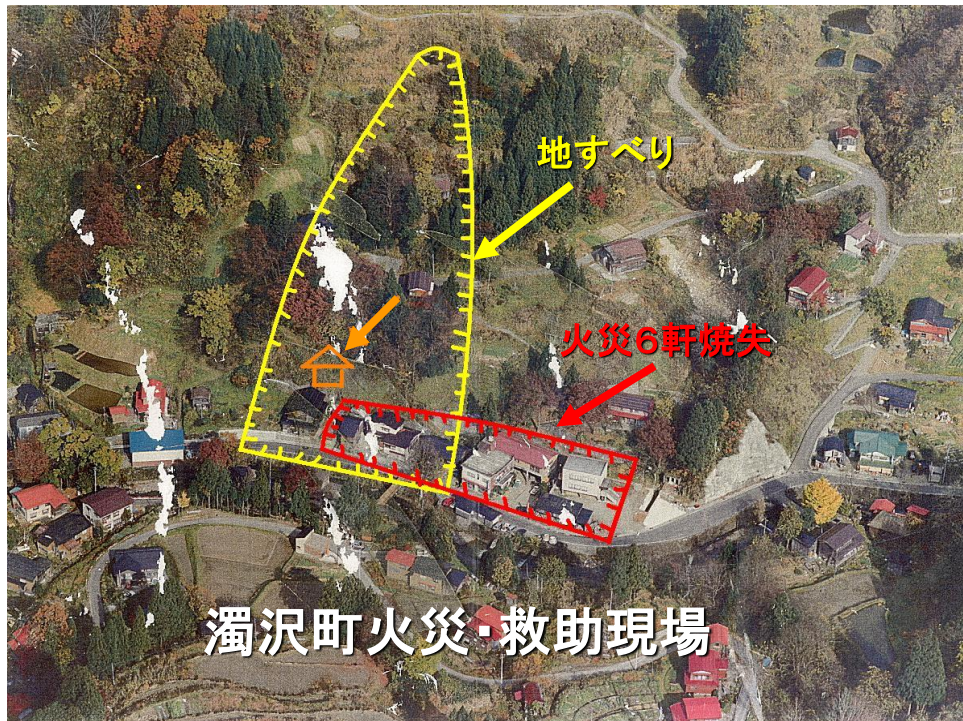
※ 緊急消防援助隊の県内全体
480隊、2,121人が10日間の活動に従事



















まとめ

新潟県中越地震の特徴(その1)

- ① 中越地方一帯は、日本有数の地滑り地帯で柔らかい地質のため、強力な揺れにより地盤が動き、住宅被害や道路被害が多く発生した。
- ② 震度が大きく余震が続いた割には、座屈倒壊家屋が少なく、倒壊家屋での救助活動が無かった。
○濁沢町と妙見町の地すべり現場以外は、大規模な救助現場はありませんでした。
- ③ 地震発生による火災が 6件と少なかった。
○建物火災全焼は1件で、地震又は地すべりによるものでした。(濁沢町)
○その他は、比較的規模が小さい火災で終わりました。

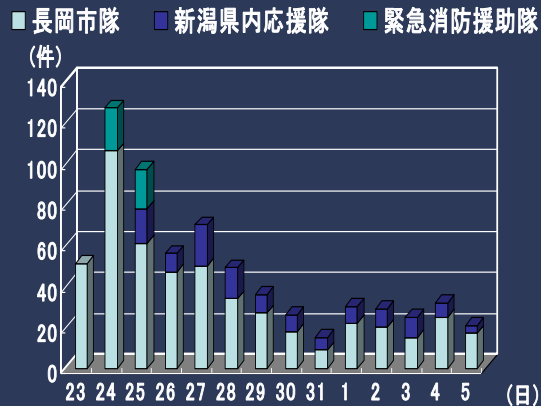
新潟県中越地震の特徴(その2)

- ① 救急出動件数は、発災当日は42件、翌日が最も多く127件、次いで3日目の25日は97件、その後徐々に減少した。
- ② 地震による負傷者数は101人で、75%が軽症であった。
- ③ 病院の被害が少なかった。

(参考)

震災の1週間前に、長岡赤十字病院と長岡消防が、合同で地震を想定した大規模な訓練を実施した。

このこともあり、病院から本番は非常にスムーズに対応できたという話もありました。



教訓により講じた消防の対応

- ① 携帯無線機や衛星電話を整備した。

情報収集能力を高めるため、消防団分団長以上に携帯無線機を配備した。また、山間地での無線不感地帯対策として衛星電話を整備した。

- ② 消防本部庁舎を免震構造とした。

地震発生から6年後の平成22年に、新庁舎が完成した。

- ③ 緊急消防援助隊受援計画及び各種マニュアル等の見直しを図った。

災害を経験しての教訓や反省(その1)

- ① 他市町村の被害状況を把握し、近隣市町村同士が連携し助け合う必要があった。

消防は市町村単位。
各市町村の災害対策本部は、自分の市町村しか分らない。
災害状況、自衛隊の動き等情報の共有化はできないか。

- ② 初動時の情報把握は、上空からの映像が一番である。

リモコンヘリの活用・・・市町村が持てる低価格なもの

災害を経験しての教訓や反省(その2)

- ③ 重量物等障害物の除去は、重機を活用する。

重機の保有と運転者の育成
(重機が持てず運転免許だけでは、
人が中にいる災害現場活動は難しいのでは?)

- ④ 消防応援隊の指揮は受援した消防本部が執るが、国、県、警察及び自衛隊が関係すると、どの機関が指揮をとるのかははっきりしなかった。

終わりに

- ① 震度5強以上の地震は、大規模災害となり、活動
広範が広く、地元消防だけでは対応が困難です。
- ② 広域消防応援体制がいかに重要かを痛感しまし
た。
- ③ 消防、警察、自衛隊等合同の活動になっても、地
元消防で指揮が執れるよう力をつけ、また、応援側・
受援側の両面からの立場で、迅速な対応ができるよ
う、日頃から心掛けております。

＜以上で終わります。ありがとうございました。＞